

2.4 課題研究

(1) 研究開発の課題（概要）

学校設定科目「スーパーサイエンス概論」の一環として、生徒各々に興味関心のある分野に関する課題を設定させ、夏季休業中に、調査・探究させレポートとしてまとめさせた。生徒の課題研究への取組やすさを考慮し、課題は自然科学のみならず、社会科学、生活科学、人文科学等なども可とし、SSH 企画ではあるが科学関連の内容に限定しなかった。最後に、提出されたレポートの中から優秀なものをピックアップし、1年生普通科全員の前で発表させた。

(2) 仮説（ねらい、目標）

上記の作業を通して、課題設定・調査研究方法・報告及び発表等の能力の育成を図る。また「自ら学ぶ」姿勢を涵養する契機として位置づけることを目指す。

(3) 課題研究の流れおよび内容・方法

ア 本研究の概要について説明し、1学期中にテーマを決定させ、集約する。

イ 「SSH 国語」および「現代社会」などの授業を通して、研究方法・レポート作成について指導を受ける。

ウ 1学期末及び夏季休業中の出校日に、テーマ登録・中間報告を提出させる。夏季休業中での研究成果を、2学期の初めにレポートにて提出させる。

エ 9月下旬から10月上旬の「SSH 理科」の授業内で、6～7名ごとのグループ内で1人5分の持ち時間にて発表させ、生徒間での相互評価をさせる。



クラス内発表風景

オ 生徒間の相互評価及び SSH 担当者の評価をもとに、学年全体で優秀作品を選出し、発表の可否について本人に確認する。

カ 冬季休業中を利用し、パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成させる。
(自宅等でできない生徒には、学校のパソコンを利用させる。)

キ 3学期末の授業時間を利用し、1年普通科生徒に対し発表会を行う。発表会は、一斉に発表を聞くスタイルとし、聞く生徒には記録をとらせる。

(4) 全体発表会

ア 実施日時・場所

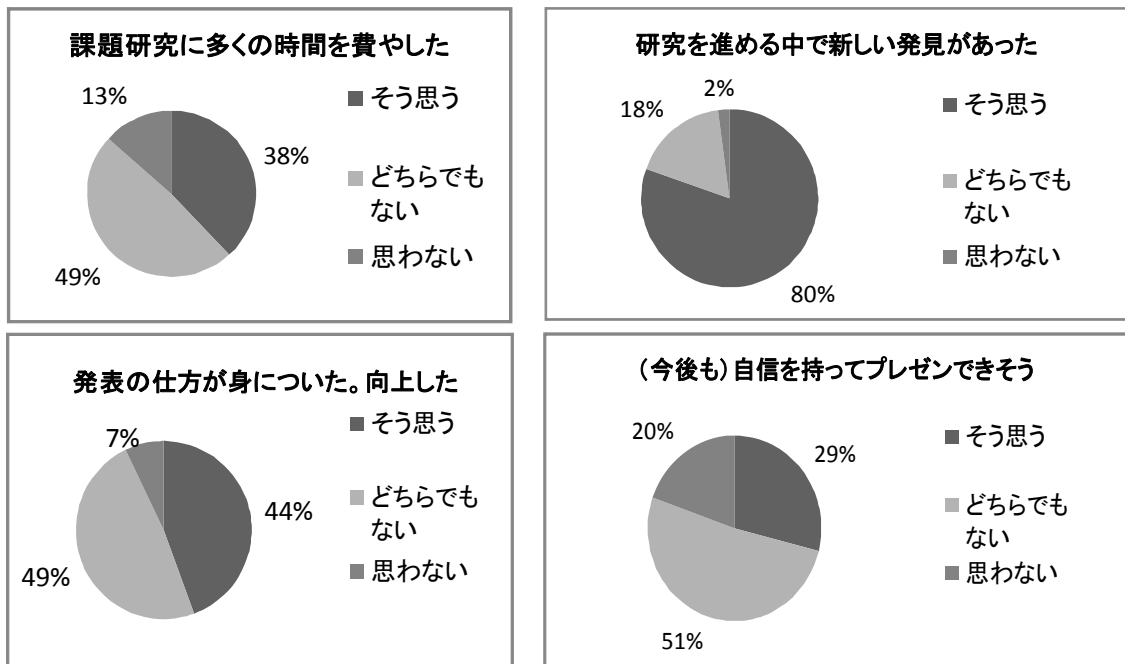
平成24年3月8日（木） 本校 第一体育館

イ 実施内容

生徒が実施した研究の発表会を行う。

(5) 検証（成果と反省）

クラス内発表後、一部の生徒を対象にアンケートを実施し、次のような結果を得た。



アンケートの結果から、80%の生徒が課題研究を進めるなかで新しい発見があったと感じていることが分かった。生徒が作成したレポートは、自分の興味のある分野に関するテーマで文献を基に詳細にまとめられているものが多く得られたが、課題研究に費やす時間も夏季休業中であったため生徒にとって大きな負担になっていないようである。一方で、一部の生徒で参考文献やホームページの内容を機械的に写しただけで理解できていないもの、消極的であるだけでなく著作権の問題にも抵触しかねないものが見受けられた。

また、発表の仕方に関しては、向上したと感じている生徒が半数近くいる一方で、自信を持ってプレゼン出来そうであると答える生徒は少数であることから、通常の学習活動の中でも発表の機会を設けるなどの継続した指導が求められる。

全体的な本実践の効果としては「どちらでもない」と答える生徒も多く、まだ改善の余地が多いことがうかがえる。レポートや発表中の生徒たちの様子から次年度に向けた課題として次の2点を挙げる。

- ・生徒の作成したレポートは調べた内容を詳細にまとめているものが多く、レポート作成に取り組む姿勢は評価できた。しかし、文献や実験結果から読み取れる事柄についての考察が不十分な生徒が多く「調べ学習」にとどまっているものが多かった。
- ・発表に関しては、グループに向けた少人数に対する発表としたため、人前で話をするのが苦手な生徒にとっては取り組み易い形態だったと考えられる。その半面、少人数で説明がしやすいため、十分に発表に向けた準備がされていない生徒も見受けられた。

以上のことから、研究レポートの書き方及び発表の仕方に関する事前指導の充実を計っていききたい。